

新年のご挨拶



森田 俊作
1979年卒
大樟春秋会 会長
大和リース株式会社
代表取締役会長

新年明けましておめでとうございます。

昨年はコロナ禍による行動制限の緩和という「潮目」と大学の創立90周年という「節目」が重なった年でありました。そういった慌ただしい中でも大樟春秋会へ多大なご支援を賜り誠にありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

さて、今年2023年ではありますが今年もあらゆる情報メディアから「〇×危機」という言葉を耳にタコができるくらい聞く年になりそうです。どういう風になっても「用意周到、準備万端、先手必勝」で臨みたいものです。

春秋会の活動ですが、勇み足を覚悟でやった寄付講義も今年は少し定期点検すべし、かなと思っています。学生が中心にいて、そのすぐ傍に大学(講師と職員)がいて、社会の先達としての大樟会があり、経済の実践者としての春秋会がある。各々の役割を全うできる体制になればと思う次第であります。

昨年、新設された「公共」という高校教科書の目次を眺めますと幸福論・憲法と国際政治・市場経済・金融政策・財政と社会保障・領土紛争とテロ・食糧自給率・外国為替・資源エネルギーと環境問題・自立社会と多様性・少子化/高齢化社会・持続可能性等々こんなに多くの事を学ぶのかと驚嘆しますが、それがまさに今我々が置かれている状況なのです。

毎日のように新しい言葉が飛び交い、昨日の勝者が敗者となる時代です。「実学一致」を大学関係者と卒業生が一致団結して取り組まねばならないと切に思います。是非とも皆様の温かいご理解とご支援を賜ることを又皆様のご健勝を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。



高岡 伸夫
1975年卒
大樟春秋会 副会長
株式会社タカショー
代表取締役社長

あけましておめでとうございます。1975年卒の副会長の高岡です。

本校在学中に高校から同期の仲間とフォークソングのグループを作り、芸能界を目指すのが断念。その後就職後出会い1980年に株式会社タカショーを創業。その後2018年にプライム市場に多くの大経大卒業生社員と共に上場。

大阪経済大学は、真面目に一生懸命が特徴で、社会に出て活躍される方が多く、岩谷産業の牧野会長様、1兆円を超えたウエルネス池野会長様、大和リースの春秋会の森田会長始め、多くの大手企業・ベンチャーの社長始め中小企業までの卒業生を輩出してきました。

今後、大樟会の専門職や官、学それぞれのご活躍の皆様とネットワークしながら、社会の貢献してまいける大樟春秋会であることを念じております。



太田 剛
1983年卒
大樟春秋会 副会長
株式会社ハブ
代表取締役社長

あけましておめでとうございます。春秋会会員の皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

コロナ禍、日本も全世界的な動向からは周回遅れの感は拭えませんが、ここに来てようやく行動制限も緩くなり訪日外国人消費、国内旅行需要が伸びてきました。

会員皆様の企業におかれましても消費の回復は業態により濃淡はあると存じますが、今年こそはコロナ禍の一定の収束を期待し失われた3年間をとり戻す1年としたいものです。

弊社においては、この3年間で多くのものを失いましたが、一方で「経営理念」事業の存続意義を改めて再確認することで、全従業員が一枚岩となり、より筋肉質な体制を構築することができました。

「ネアカ のびのび へこたれず」2023年を新たな創業の年と捉えて挑戦して参ります。



新年のご挨拶



安原 教夫

1975年卒

大樟春秋会 組織部会長
近畿産業リース株式会社
常勤顧問

春秋会の皆様、明けましておめでとうございます。
昨年は皆様方からのご協力によりまして、40回卒から71回卒迄の幅広い卒業生、21名の力強いメンバーが入会されました。ご紹介を頂きました方々に心からお礼申し上げます。

春秋会の会員増員と親睦を兼ねてのゴルフコンペを、一昨年9月から名門読売CCで昨年9月17日迄に、都合3回開催致しました。まだまだ3組程度ですが、会員拡充と懇親の場づくりにと思い奮ってのご参加を願っています。

来たる100周年に備え、当面の目標である100名達成には、会員皆様のご協力なくして立ち行くものではありません。この事に深いご理解とご協力を本年も宜しくお願い申し上げます。



田岡 弘志

1983年卒

大樟春秋会 広報部会長
株式会社 阪急阪神ホテルズ
執行役員 総支配人

新年明けましておめでとうございます。
昨年90周年を迎え、大学・大樟会・春秋会が連携を図り、様々な行事を実施致しました。90周年はひとつの通過点であり、本年は100周年のあるべき姿を確立させ、それに向けて明確に前進させていくことが大切だと感じております。

少子化に加え、各大学では新時代を見据えた、新学部増設・定員増等、企業間競争同様に切磋琢磨していかないと、母校も生き残れない状況を迎えるかもしれません。10万人を超えた卒業生、著名な先輩方、母校に誇りを抱き、春秋会の会員のみなさんが、より連携し母校の発展に寄与していく。そして会員皆様の事業も益々ご隆盛されること祈念致しております。

「秋の定例会」開催報告

期日：2022年12月19日(月) 18時00分～20時30分

会場：ホテル阪急インターナショナル 6F「瑞鳥」

来賓：大経大 藤本理事長 山本学長 崎田常務理事

黒正部長 望月部長 大塚課長

大阪経済大学 吹奏楽部の皆様

大樟会 角協会長 角庵事務局長

春秋会：会員13名

大学からは藤本理事長並びに山本学長、崎田常務理事、江島経営学部長、進路支援部(望月部長) 社会連携課(黒正部長・大塚課長) 各位にご臨席賜り大学の近況報告並びに大樟会からは角協会長、角庵事務局長から大樟会活動報告をいただきました。

大樟春秋会では平成12年7月18日に新阪急ホテルにて第1回発会式を開催して以来、39回目の集まりとなりました。



北 哲弥

1984年卒

大樟春秋会 運営部会長
大和リース株式会社
代表取締役社長

新年あけましておめでとうございます。
昨年は母校大阪経済大学 90周年記念講演会及び春秋会 寄付講座にご協力をいただきありがとうございます。多くの方々にご参加いただいております。

漸くコロナ禍を抜け出し、社会も明るい兆しが見えてきてきました。今年は大きく飛躍できる一年にしたいと思っております。春秋会も大学と連携し現役学生のために、また、大学の発展のための運営を行ってまいります。ご協力よろしくお願いたします。



福岡 寛

1983年卒

大樟春秋会 監事
大阪シティ信用金庫
副理事長

明けましておめでとうございます。
今年は、マイナンバーカードの発行促進や給与の電子マネー支払、インボイス制度の開始、電子帳簿保存法の対応義務化など、法整備も含めて、デジタル化に向けた環境整備が一層進んでまいります。

このようなデジタル化の一方で、アナログの重要性もまたクローズアップされており、個人や企業において、何をどのように使い分けていくのか、その「しなやかさ」が求められていると感じているところです。

大学教育においても社会における最先端のデジタル化に対応するとともに、アナログにも強い、「しなやかさ」を持つ学生を輩出できる大阪経済大学となるよう、春秋会としてバックアップする年でありたいと思えます。

今年は、癸(みづのと)卯(う)ですが、これにあやかりこの一年が皆さまの希望が芽吹く春が到来する吉年となることを願いますとともに、皆さま方のご健勝とますますのご繁栄を心よりお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

第8波コロナ禍の中での開催でしたが(リアル+リモート)でのハイブリットで開催いたしました。恒例となりましたが、学生クラブ支援として吹奏楽総部のミニコンサートを開催し予定外のアンコールまで演奏いただき現役学生の元気を戴きました。次回40回目(2023年6月予定)はどのクラブに出演いただくか期待が膨らみました。

大樟春秋会では企業、卒業生からの支援により開設いたしました「春秋会基金」より恒例の「北浜・実践経営塾」、本年度で二回目となる「大樟春秋会・寄付講座」(社会問題解決に向けての挑戦)、「大学90周年記念講演会」、に引き続き新年度より企業大樟塾「大経大アントレナーシップ塾」を開催いたします。引き続き大樟会会員の皆様のご支援をお願いし報告に変えさせていただきます。